

小尾敏夫（座長代理）の報告案コメント ワシントン@4月6日

A. 「全体」—短く要望などをまとめたので、検討期待

1. 報告書要旨案は医療系を中心に全体としてよくできている。
2. 昨年の構想会議報告書との相違や進化した点を明示してほしい
3. 特に構想会議の成果を受けて推進会議としてスタートしたわけだから、いつ何をどうアクションするのか、2020年に向けた「ロードマップ（作業工程表）」を構築するのが前回からの宿題。

B. 「成長戦略」

1. 「アベノミクス」への貢献、支援内容を具体的に明示すべき。
2. 国家戦略特区での役割—ヘルスケアなど、今後の追加特区への本推進会議でまとめる複数の検討モデルの投入を期待
3. ビジョン3「新産業の創出」で23兆円市場出現が可能との内容を精査し、具体的にどのセクターをどうすると新産業が創出できるのか。

C. 「超高齢社会の構成員」

1. 高齢者対策が必然的に大きなウエイトを持つが、大事なのは社会の担い手としての若者階層の活躍の場—雇用確保や老若協働社会の構築が大事
2. アクティブ・シニアの技術・生産・経営 know-howなどをいかに若者にスムーズに移転するかのベストプラクティス・モデルの確立が必要

D. 「国際展開」

1. ビジョンには書かれているが、検討モデル案には具体的事例がない
2. EUとの協力は推進者の私として賛成だが、アジアへの展開・交流も2020年を見据えて積極的な協働作業確立が肝心で要議論。